



熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

No. 41 平成30年4月1日
 発行 (公社) 日本山岳会熊本支部
 熊本市野口2丁目13-7
 安場 俊郎 方
 電話 096-357-1236
 発行者 松本 莞爾
 印刷 (有) ベストプロセス

目	次
1. 支部60周年記念式典報告 松本 莞爾	2. 台湾玉山登山報告 中林 暉幸
3. 大山雪山研修会報告 中林 暉幸	4. 冬山登山講習会報告(九重) 佐藤 正樹
5. 干支の山(犬鳴山)下見 山本 直	6. 干支の山「犬鳴山」報告 山本 直
7. 干支の山犬鳴山に参加して 浦川 留美	8. ニュージーランド遠征報告 宇都宮信夫
9. パタゴニアトレッキング 安場 俊郎	10. 宮崎支部との交流会 廣永 峻一
11. 残雪期富士登山計画 土井 理	12. 幌尻岳遭難事故に学ぶ 工藤 文昭
13. 登山計画書の義務付け 事務局	14. 平成30年度事業計画 事務局

(公社) 日本山岳会熊本支部設立60周年記念式典・報告

8411 松本 莞爾

社団法人日本山岳会熊本支部の設立60周年記念事業について、好評の中無事終了し、事業にご協力頂いた皆さんと支店に参加された皆さんに感謝と報告をさせていただきます。

1. 事業名

社団法人日本山岳会熊本支部設立60周年記念事業(式典・記念登山・記念事業)

2. 期日 平成29年11月18日(土)~19日(日)

3. 式典会場 熊本市 「アークホテル熊本」

4. 記念登山 阿蘇外輪山 「鞍岳」

5. 参加費 7000円(式典・祝賀会)

6. 参加者数 熊本支部関係 千葉支部 静岡支部 山陰支部 北九州支部 福岡支部 東九州支部 宮崎支部 本部から重廣副会長ご出席 合計97名

7. 会計関係 参加費・寄付金・支部積立金にて経費を充当 会計報告については、処理が完了して後報告いたします

以上の要綱で2日間の日程で開催されましたが、この事業に取りかかったのは熊本地震が発生した平成16年地震の為当初の計画が大きくずれ込み、会員の皆さんにお願いしていた「一等三角点」の調査が遅れてしまいました。其れでも延べ人数にして約90名の方々により、詳しい三角点の全貌が現れました。記念誌に掲載しましたが、評判が良く、記念



祝辞を述べる重廣副会長

誌をほしいとの要望が沢山あり。三角点調査は支部の宝となりました。また、60周年記念事業として海外登山を、台湾の「玉山」に定め、10名の会員の隊員編成で実施、残念ながら、天候不順と日程の不足により登頂は叶いませんでした。以下中林氏のまとめによる報告です



記念登山 (鞍岳)

日本山岳会熊本支部
設立 60 周年記念・台湾玉山登山報告(2017 年 12 月)
 14305 中林暉幸

参加者 宇都宮信夫、廣永峻一、石井文雄、加藤明、安場俊郎、中林暉幸、池田清志、松本博美、坂本雄二、土肥ムツ子(10名)

日程 12/9 中華航空 福岡空港→台北・市内観光(中正紀念堂、龍山寺、烏龍茶店)
 12/10 台北市内観光(忠烈祠、故宮博物館、免税店)→高鐵嘉儀駅→阿里山ホテル
 12/11 阿里山ホテル→塔々加鞍部玉山登山口→排雲山莊
 12/12 排雲山莊→玉山→排雲山莊→塔々加鞍部→東捕温泉(帝輪温泉ホテル)
 12/13 東捕温泉(帝輪温泉ホテル)→台中市内観光(宝覺寺、台中公園)→桃園國際空港→福岡空港、

旅程紀行

今般の支部60周年を記念して海外遠征をやるという話が、記念行事を検討する中で持ち上がり、紆余曲折はあったが結局記念式典終了後の12月に実行することになり、宇都宮会員の多大な尽力により実現の運びになった。4泊5日の日程で登山と観光半々の旅程である。以下にその概要を記す。

12/9(土)熊本交通センター5:30 発福岡空港行高速バス、宇都宮、廣永、池田の3会員そして県庁前で土肥、中林、西合志で松本、坂本の2会員、植木で石井、加藤の2会員順次乗車、7:55 福岡空港国際線ターミナル到着、安場会員は新幹線にてやがて合流した。9時からの手荷物検査、出国手続きが済むと暫く時間がある。初めての玉山に思いを馳せる。定刻10:55より少し遅れて11時過ぎ離陸。12時頃機内食(シーフードパスタとパン、ビール)。

13:45(現地時間 12:45)、台北に到着した。(ここからは現地時間で表記)

入国手続きには数百人の長蛇の列、日本人もかなり多いように見受



けられる。荷物を受け取りガイド(三晋旅行社の蔡さん:35歳)が迎えてくれる。細身で長身の蔡君、若いがてきぱきとなかなかさばける。

14:15 マイクロバスにて移動開始、雨上がりで路面は濡れている。やはり台湾、福岡の寒さがない。生水、生ものは口にしないことなどの注意や、台湾人口2300万人など大まかな説明の後、まず烏龍茶店へ、ここで円を台湾ドルに両替、幾種類かの烏龍茶を試飲、少々

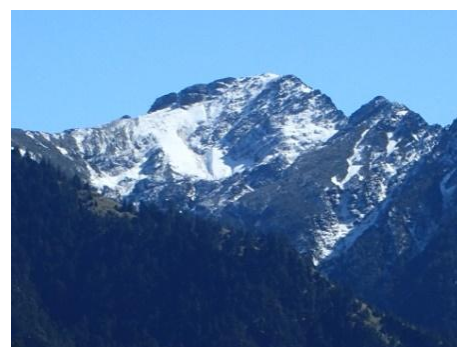


お土産を買う。15:20 店を出て次に、蒋介石を称える中正紀念堂へ、ちょうど衛兵の交代の時刻、エレベーターで上がる衛兵に先を譲る。多くの観光客の頭越しに一糸乱れぬ衛兵の交代式を見る。後日、中正紀念堂を撤去すべしという意見があることを知



った。記念堂を出て広い庭園を回って、次に清時代のお寺龍山寺に向かうが、道路は結構渋滞。

丁度何かの祭りとな重なってか境内は混雑、日本からの修学旅行生と思われる旅行者もいる。いろいろ由緒を説明されるが



頭には残らない。線香を立てて何なりと祈願する。寺を出て程なく離れたレストランで中華料理

の夕食をとり、そして大通りに面した国王大飯店(エンペラーホテル)に到着。荷を置いて一息ついた

後、満腹であるが、3人で近くをブラつき居酒屋に入る。焼肉を肴に一杯。街中も一步路地に入ると雑然としていて下町の路地裏といった感じ。

12/10(日)7時頃起床。昨夜の焼肉が余分で胃にもたれる。7:00朝食、8:10出発。半日市内観光、まず戦陣に倒れた軍人を祀る忠烈祠へ、天気は快晴。9時から衛兵の交代式があるというので大勢の人ばかり。時間になると衛兵の進行に合わせて観客も移動していく。交代が終わると制止線が払われ、瞬き一つしない衛兵と並んで記念写真を撮る者もある。次いで丘の上にある故宫博物館へ、1時間半ぐらいではじっくり見る時間はない。写真撮影は可だが、貴重な資料は改めて十分な時間をとって見学したい。時間に追われるように昼食会場、一番人気といわれる中華レストラン鼎泰豊へ、予約不可のところをガイドのコネで殆ど待たず着席、次々に出る中華料理に満腹した。



外に出ると身動きできないくらいの待ち人、2時間待ちの時もあるとか。最後に高級免税店で1時間弱、特に

何も買うものとなないが両替の金を消化するためGODIBAのチョコレートを買う。13:20台北駅着、日本の新幹線を導入したという高速鉄道で13:45高鐵嘉儀駅へ向け出発、客は多くない。赤字とか。15:15嘉儀駅着。何か心持ち台北より暖かく、アイスを食べる人もいる。大型バスに乗り換えて今日の宿阿里山のホテルへ向け出発、乗り合いバスなのか、しかし我々10人以上に客はいない。高速道路の車窓はすぐ街並みから農村風景に変わる。ドラゴンフルーツ、バナナ畑など眺めながらやがて山道へと上がっていく。阿里山へ登る山道は下る車が多数ある。高度を上げるにつれて霧の中さらにその上、阿里山の茶畑が多くなるころには雲の上、午後5時過ぎ、ガソリンスタンドにトイレ休憩停車、ちょうど日没の時間で、沈む夕日が印象的であった。18:20大型バスを降り、ホテルのワゴン車に乗り換え10分ほどで阿里山閣飯店到着。標高2000mを越えるとや

はり冷える。19時頃から夕食、連日連食の中華料理にやや食傷気味。いよいよ明日は本来の目的の玉山登山、部屋に帰って明日の準備をして早々に就寝。

12/11(月)5:50起床、6時過ぎ水筒に緑茶を入れる。天気はいい。7時朝食、食欲はあまりないが、行動日であり軽く食



べる。きゅうりのピクルスと汁粉スープが口に合った。ホテルのすぐ横を世界3大山岳鉄道といわれる阿里山鉄道が走っている。5両編成の列車は朝から多数の客でほとんど満員である。かつては森林鉄道として開発されたのだそうで、今は観光列車として



活用されているという。8時少し前集合、ワゴン車2台に分乗して出発、途中セブンイレブンに立ち寄り、用足しなど、快晴で

気持ち良い。朝日に映える雄大な山の景色に期待が高まる。8:45上東捕停車場到着、標高2200m、風が強く寒い。上はさらに寒いのかと懸念される。ここでガイドは登山ガイドとポーターに交代、登山ガイドは小柄なリンさん、荷物をポーターに預ける人もいる。トイレを済ませ、弁当(大小2つ)とお茶を受け取り、国道18号から登山道に入る。山側に入ると風はそれほどでもない。



樹木は松など多い。10分程歩くと交番があり、横に排雲管理所という入山管理所がある。パスポートのチェック、事前に申請してある書類と照合している。ここからは国家公園のシャトルバスで塔々加鞍部



まで上がる。10分足らずで鞍部の玉山登山口到着、気温は体感5,6℃か、下の駐車場と違って風もなく



暖かい。9:35 出発入山。秋口か春先の九重のような暖かさ、歩き出すと暑くなり上着を脱ぐ。先方に少し雪をかぶった高山が見える。あれが玉山南峰か。高山病に備えて、緩やかな登りをゆっくりゆっくり登っていく。

登山道は緩やかな登りであるが、右手南側斜面は急崖となっており、歩道はその急崖の岩をとところころくりぬくように張り付き、難場には橋を架け、木道を通し殆ど起伏なく平坦に通して歩いて歩きやすい。足元さえ注意すれば問題はないが、踏み外せば崖下である。橋の手摺りは直径15cm位の鉄製の頑丈なものであったり、要所には鎖が張られるなどよく整備されている。また風化した脆い急崖のため、各所に注意落石の標示があり、地質、動植物の案内板など4ヶ国語で設置され、環境保全に力を入れている様子がうかがえる。



台湾島はフィリピン海プレートとユーラシアプレートとの衝突により隆起した堆積岩層から成っており、褶曲層の観察に適したところである。東側は深く4000mの海底まで切れ落ちていくという。南北

に5層の山脈が走り、玉山山脈はその中央にあって、中央山脈と阿里山山脈にはさまれた南北150km程、玉山はその北端にある。岩石内に発見される海洋生物や舌状連鎖堆積構造とかいわれる地質の説明にはなるほどと思わせる。2000mから上の植生は松や、アセビ、シャクナゲの種類、綿毛みたいなコケ、細い小さな笹など、九州とも少し似て異なる。3000m近くになると針葉樹の樹林帯となる。特に臺灣冷杉、臺灣鐵杉、臺灣雲杉と説明がある梅の種類が排雲山荘あるいはその上部まで茂っている。しかもそれは直径1mにも近い大木で一面山肌を覆っている

のが大きな特徴である。臺灣冷杉は真っ直ぐ直立し、鐵杉は大きな枝が分かれていて区別できる。臺灣雲杉は葉が細かく遠目に葉が雲のようだ。

10:43 孟禄亭(モンロー亭)標高2838m小休止10分、ここは玉山登山の途中この崖から墜死したかつて経済協力局中国分署財務顧問のモンローを記念して、モンロー断崖と名付けられたとか。休憩舎もモンロー亭と呼ばれている。100m先にバイオトイレがある。快晴で暑い。右下には深い谷が見渡せる。11:30 玉山前峰分岐(2900m余)を左に分け、11:47 松の下で小休止10分、快晴、空気が澄んで清々しい。ほぼ1時間歩いては10分の休憩の繰り返し。13:03 白木林休憩亭3096m、多くの登山者で庵は一杯、歩道脇で13:30まで大休止、



昼食、二つしか口に入れたヒヨド羽姿を見せに雲がかかり、くなる。荘まであと



の弁当の一つらぬ。人に慣り大の鳥が数る。右手前方た玉山群峰に頂上が見えな

13:54 排雲山3km、橋、臺灣冷杉の大木が多くなる。1kmを40分のペース、14:35あと2km3250m地点、足元に少し雪が残る。14:40小休止10分、雲が多くなり風が冷たくなる。15:07あと1.5km、15:31あと1km3330m地点通過、高度障害のためか歩みが遅くなる。15:54山荘を目前にして小休止6分、3380m位か。16:30やっと排雲山荘3402m到着、予定よりも30分位遅れて到着、標準の登山時間より1時間以上かかったか。小屋の前には踏み固められた雪氷がある。手続きを済ませ、靴をスリッパに替えて入る。二段ベッド、上下5人ずつで窮屈ではない。日本の山小屋と大差はない。トイレは外の

13:30まで大休止、昼食、二つしか口に入れたヒヨド羽姿を見せに雲がかかり、くなる。荘まであと



別棟、バケツ水洗式。17:00 夕食、17:30 明日の予定を確認して早々に山荘用意のシュラフに入る。

12/12(火)2:30 起床、3:00 朝食、3:30 出発の予定であるが、朝から霧雨、メンバー一人の体調(高山病)があまりよくない。宇都宮会員と2人で早めの下山を決める。朝食後、天気不良のため本隊の今日の行動についてガイドと相談する。安全確認ができるころまで雪の様子だけでも見に上がろうという声もあったが、ガイドはメンバーが高齢なこと、上部は氷もあり、スリップが心配として上部の行動には消極的、ガイドの意向を無視はできず結局全員揃って下山することにして夜明けを待つことにする。再びシュラフに潜り、夜明けを待つ。6時ごろから下山準備、荷をポーターに預けたり、分担したりして6:50 ころから下山開始。そのころ雨は少し強くなる。視界約100m、気温は4、5℃位か風はなく寒くはない。7:45 玉山地質地形舌状漣紋堆積構造との説明がある大硝壁で小休止、雨は時々強くなるがほぼ小雨模様。8:25 小休止、塔々加鞍部まであと5.5 km 3120mぐらいか。8:55 白木林休憩亭で小休止、鳥(金翼白眉か)また現れる。風はないが視界悪い。左手南側の谷には雲海が広がる。9:10 白木林亭を出発下山、10:00 登山口まであと3.5 km通過、10:35 前峰分岐通過、往路をゆっくり下る。11:00 あと2 km地点で小休止、標高2850m、雨。11:13 孟禄亭で小休止、12:15 塔々加鞍部登山口に到着した。シャトルバスを待って12:25 バス乗車、12:31 上東捕停車場に到着し、登山行動は一応無事終了した。

すぐ近くのレストランで昼食休憩、ここで登山ガイドと別れ、再びガイド蔡君の案内でバスは国道18号を東捕温泉へ向けて下山、途中道路工事のため15時まで35分ほど足止め。その間ガイドの蔡君と台湾の経済、政治情勢など縷々質問のやり取りを行って時間を待つ。15:30 東捕温泉・帝輪温泉ホテル到着、標高1000mを超えている。荷物を運び入



れると早速温泉へ、18:00~19:00 夕食、頂上を踏めなかった無念さはあるものの、登山行動終了を祝い乾杯する。

20:00 からは1階ロビーでホテルのスタッフによる現地民の踊りやパフォーマンスがあり、一緒になって盛り上がった。



12/13(水)時間より早く5時頃には起き、荷物の整理など、6:30 朝食、7時ホテルを出発し台中に向かう。8:30 途中のSAでトイレ休憩、台中市内に入り、9:25~9:50 宝覺寺、10:05~10:40 台中公園を散策、11時ころからホテル兆尹櫻で最後の中華料理を味わい、12:10 出発、バスは再び高速道路を一路北上し台北桃園国際空港へ向かう。13:50 空港到着、それぞれ土産物を購入して両替した台湾ドルを消化し、出国手続等終えてゲート待合室で待機、16:30 発の中華航空機、定時より30分ほど遅れて福岡へ向け飛び立った。約2時間の飛行の後、日本時間20:10 福岡空港着陸、入国手続きと荷物受け取りの後、安場会員は新幹線で、他は高速バス乗車、順次流れ解散、今回の旅程終了となった。



今回の台湾・玉山遠征、私も含めて多くが初めての台湾ということもあり、山だけでなく半分観光も兼ねた旅程である。当然観光も駆け足、山も予備日なしの窮屈な日程であった。それでも気候の落ち着いたこの時期ということで山頂を踏むのを大いに期待していたが無情にも運に見放された。ガイドの案内にも少々不満も残る。事前の打ち合わせをもう少し綿密にして装備を整えて臨めば、全員でなくても登頂も可能ではなかったかと悔やまれる。ガイドとしてはリスクは避けたいというのは理解できるが…。そんな思いが行ったり来たり、いまいち吹っ切れない心残りのある遠征であった。

《参加者の感想・反省》

中高年登山成功のカギ：

担当リーダー 宇都宮信夫

今回の遠征に当たり私は失敗の文字は頭になかった。それは日常的な大なり小なりの登山の経験からと玉山は乾季で雨の日は大変稀であることの事前調査によるものであった。高山病で何人か下山したとしても、残りの隊員で登頂は成功するものと考えていました。

旅行全体も天候には恵まれ、アタック前日は快晴で登山を堪能したがアタックの朝になると雨であった。雨は山頂では氷になり、大変危険な状態であるとのガイドの説明であった。起床は2時30分、私はほとんど徹夜状態であった。それから高山病の下山組と登頂をめざす組で二転三転の話し合いが1時間ほど続いたが結果は全員下山となった。この話し合いは今回の登山で重要な体験となった。

今回の問題点

★玉山には毎日90人程の登山者が登ってくるが、ほとんどが30から40歳前後に見られた。その年代に合わせて休憩所やトイレが配置してあり、ペース配分が我々の年代とは違っていた。したがって3km前後を7時間の時間歩くことになり、その中で休憩時間が少なく今までにない大変な疲れを感じた。

★アタック日が固定されて予備の日がなかったことである。

この2点が解決できれば次回の遠征は成功すると考えますが皆さんの意見はいかがでしょう。

つまり、ゆっくりしたペース配分とアタック日にゆとりを持たせることで中高年登山の成功確率が高くなるものと思われました。

今回得た貴重な体験から次回の遠征にはこの教訓を生かし、中高年登山も成功させたいものです。

台湾玉山登山：

石井文雄

玉山登山については雪山のためアイゼン、ピッケルは必需品であったが今回は不要との話に落ち着きスタート。現地ガイドも昨日出発前には登れるように言いながら今朝の雨で消極的になり、雨により山は急傾斜で凍結しており上への山行は無理と結論付けている。登れるところまで行き雪山の経験もしたいと申し出たが、登る気はなさそうで、明るく

なり下山、我々の年齢では山荘に登頂前後2泊が必要であると思える。高山病に罹った一人も元気を取り戻して帰着出来て、メデタシに終えることができた。山道ではツルリンドウ、カワラナデシコ、ヤナウツボ等が見られ、阿里山のホテルではカラーの花、ほか東捕温泉近くでは野生のヒマワリ？やブーゲンビリア、ポインセチアや他の樹木の花が咲き、ドラゴンフルーツ、ブドウ、リンゴ、マンゴウ等多くの果樹や野菜も多く楽しい旅ができた。また高速道路も進みチップをはめ込んだ車両にて料金徴収所がなく乗り降りがスピードを落とさず通過できていた。温泉の洗い場には鏡がなく髭剃りの習慣は無さそう、街中ではガジュマルの木が多く、椰子の高木、松等緑が多くゴミの散乱等は無く剪定も良くされて、気持ち良い公園等も見受けられた。



50年前に登った山であり、晴天の山頂を望んだがかなわず残念であった。九州程の木の葉のような形の国である親日派の多い台湾が益々発展するように！

台湾玉山登山に参加して：

安場俊郎

玉山は初めてですかといわれて「そうです。とっとききました。」と答え

た。中華料理を食べて、観光もして、1泊2日の山登り、富士山より200m高いが頑張ればなんとか登れるだろう。と考えていた。



しかしながら老化は確実に迫ってきており、加えて肥満(2年前より5kg増)トレーニング不足と相まって、かなり身体にこたえた。

休みが少ないとの声もあったが、ガイドは1時間に1回、10分の休みをとっており、かなりのゆっくりのペースで歩いてくれた。私達のペースが遅すぎたのだ。登山ツアーの日程によれば登山口から排雲山荘まで約5時間とあるところを、我々は7時間

かかった。2日目の早朝3時からの頂上アタックも天候と登山道の積雪のため、全員中止となったが、あのまま出発していれば頂上往復に6時間、山荘で1時間休んで、さらに登山口まで復路を5~6時間、私の体力ではかなり無理な行程だったと悟った次第である。

高山病については、夕食も普通に食べたので、症状は顕著ではなかったようであるがダイヤモンドを飲んでいたため、夜中に1時間おきに小用に起きたので同室の皆さんに迷惑をかけた。睡眠不足で帰りの道は眠気に悩まされた。

旅行自体は、中華料理の食事もおいしく、観光もできて満足した。

台湾「玉山」遠征： 坂本雄二

12月9日(土)~12月13日(水)までの台湾行き。半分観光(台北市内、台中市内)と11日、12日の登山。楽しい思い出となった。11日は晴天で登山口に立ったときや排雲山荘から見た雪の玉山山頂を見て明日は山頂が踏めるとわくわくした。ところが12日は朝から雨・風で協議の末、登頂を諦め下山を決めた。残念ではあるがよい決断だったと思った。山岳ガイドは天候の状況等も以前から把握しており、初めから山頂を踏む気はなかったのではないかと、という感じもした。しかし、山岳会の皆さんと登山・旅行・グルメと充分楽しめたので、帰国して感想を書いている今も楽しい思い出となって残っている。有難うございました。

台湾の山行： 土肥ムツ子

台湾の山は初めてだった。2、3年前に誘われたがその時はどうしても予定がつかず行けなかった。登山道は整備されていたよ、との話に今度機会があったら是非でも行く、と心に誓っていた。チャンスは思いのほか早く訪れた。

しかし玉山は想像以上に大きい山だった。槍、穂高などと比べものにならない。やはり3000mを越えると息苦しくなる。一定の速度で歩くと楽であった。排雲山荘近くになると疲れていた。1時間以上遅れて到着、雪も少々残っていた。でも明日は夢にまで見た玉山頂上に立てると思い、夕食後すぐ寝袋にもぐりこんだ。いつも文明の利器に囲まれて生活する我々にTVもラジオもない時が流れた。

午前2時、外は無情にも小雨、がっかり、しかし登れるかも。心は揺れていた。ガイド、リーダーの判断で下山決行となった。仕方ない。下山してみると頂上を踏むのは無理だったと思い知らされた。山荘から頂上まで約3時間、そして登山口に降りるのに7時間位はかかるという。下山が正しかったと思った。今の体力ではもう一泊必要だと思う。下山しからの東捕温泉は素晴らしい環境、温泉だった。欲張って3度も入浴した。

帰国当日、台中観光した。法覚寺や台中公園を回った。台中公園の一角に日本人を葬ってある塔を見た。先の戦争で戦禍に倒れ、祖国の土を踏む事なく無念の死を遂げた方々の墓碑である。無名の遺骨を手厚く保全して下さっている。立ち去りがたかった。

一人歩いていた時、70歳位の女の人が「日本人か」とたどたどしい言葉で言った。そうですと言ったら握手をしてくれた。丁寧に葬ってくれてありがとうと返した。仲間に恵まれ、安全な山行でした。ありがとうございました。

台湾(玉山)を思う： 松本博美

2017年12月9日~13日台湾(玉山)遠征。山頂登頂を果たせなかった。平均年齢60歳代、歩行スピードは遅くなる。高山病の症状が出たメンバーもいた。私は水分補給と深い呼吸を意識したのが功を奏した。12日アタック当

日早朝3時、外は雨、風、ガス、氷結等悪天候が重なって登山ガイドは登頂断念の判断。山の状態を知る地元ガイドの判断に逆らうことはできない。しかしその判断に不満が残る。元気な人だけでも行ける所まで行くという思いはかなえられず下山するという判断。アイゼンがあれば行けたという思いがあるが、アイゼンはいらないというガイドの一言でアイゼンは登山口に置いてきた。鵜呑みにした当方



の甘さもあるが、ガイドのいい加減さを垣間見る。そんなモヤモヤを払拭してくれたのが下山後の温泉ホテルの一夜である。手足を伸ばし心身共にリセットできた。少数民族と思われるホテルスタッフの純朴さにも癒された。民族衣装に身を包んだ踊りのパフォーマンスや宿泊者も参加しての踊りにも興じた。とはいえ頭の片隅には登頂がかなわなかったという無念さが残る。リベンジしたい！そう思わせる山であった。山は逃げない！

台湾・玉山登山…

『ニイタカヤマノボレズ』だった：

池田清志

私にとって初の海外登山、玉山は太平洋戦争の口火を切った暗号電文『ニイタカヤマノボレ』で、子供の頃から耳にしていた山だった。今回幸運にもチャンスに恵まれ、参加させてもらえた。メンバーは女性一人を含む10名、平均年齢は70.6才だがほとんどの人が海外登山の経験豊かな人ばかり。初心者の私はいつもキョロキョロ、ことに前半は観光で目・耳・鼻と舌、五感の感度は上がりっぱなしで、山に入る前に早くも疲労していた。

しかし、バスが阿里山付近(2400m)まで登ってくると再び元気がわいてきた。登山の一日目は登山口(2600m)から排雲山荘(3400m)までのゆるやかな登り。天気もよく、気持ちよく歩けたが、3000m付近の「巨木の森」あたりからさすがに空気の薄さを感じ、息苦しさをおぼえた。やがて積雪があたりに出てきたと思ったら排雲山荘が目の前に現れてホッとした。気温は5℃前後？で寒く、山荘の中は暖房してあるが薄暗くて冷たい。外は風が出て霧雨・小雨からしぐれ模様になり心も薄暗くなった。翌朝は頂上へのアタックだがガイドやリーダーの検討の結果、全員下山となる。霧雨・小雨と風の中の下山だったが、やがて明るくなり、下界の雲海が素晴らしい眺めをずっと見せてくれた。レストランに着くとやっと人心地、最後の一夜は日本式温泉で疲れを癒し、地元の民族衣装の踊りを楽しんだ。

山頂を踏むことはできなかったが、いろんな面で良い経験・体験ができ、今後の海外登山の入門編となったことは大きな収穫であった。

◎ 鳥取大山雪山研修報告

2018.2.10(土)～12(月)

14305 中林暉幸

参加者：石井文雄、安場俊郎、中林暉幸、土井理、佐藤正樹、松本博美、中村寛、坂本雄二、橋本悦子
昨年が続いての大山での雪山研修、メンバーは昨年より2人増えた。橋本さんは専らスキー、山行は残り8人。予報によると11,12日は冬型の気圧配置が強まり、少々荒れ模様とか。

2/10(土) 予定通り 20時熊本市北区役所集合、見送りに松本支部長と浦川さんも来てくれ、元気付けの差し入れもいただいた。全員揃うのを待って、20:30区役所を出発、土井・中林車に分乗、九州道、



中国道、松江道、山陰道を経て大山ICそして大山寺のホテル大山しろがねまで

少々の長旅である。途中21:40古賀SA、23:35鹿野PAで休憩、交代しながら深夜の運転だが、明日の山を思い眠くはならない。2/11(日)になって1:00安佐PAで給油し、軽く夜食を摂る。1:45三次東JCTで松江道に入り、2:45宍道湖PA休憩。3:50頃大山寺南光河原駐車場に到着、駐車場はうまい具合に2台分空いていた。ただ駐車スペースには雪が30cm余り積んでいてスコップで雪をどけて駐車、スコップは必需品である。ホテル大山しろがねに入り、4:20大広間に仮眠、部屋は暖房が効いて暖かかったが、次第に寒くなり、シュラフカバーを出して着る。持ってきて役に立った。

6:30起床、荷物をまとめて別の部屋に移し、7:00から朝食、7:55残置の荷物を宿に置き、荒天が予想されるためオーバーズボン・ミトン、パーカー、防寒帽等完全装備でホテルを出て、駐車場でアイゼンをつけるなど準備を整え、8:25弥山へ向け出発入山する。当初の予定では今日が元谷での雪上訓練、明日が弥山頂上までの登山であったが、明日の方が天

気は厳しいだろうということで行動を入れ替えることにした。弥山の夏山登山口は駐車場を出てすぐ左手に上がる。雪は去年よりも多い。気温は -10°C 位か。佐藤SLを先頭に土井CLが中央付近、中林が最後尾、風は殆どないが絶え間なく粉雪が降る。2合目付近、安場さんは後からマイペースで登るといふ。9:30 3合目付近小休止、10:30 6合目の小屋で小休止、視界 50m余り、ここら辺りからかなりの強風、気温も低くピッケルを握る手が凍える。小屋の中は満員で入れない。ここから引き返すパーティが多い。坂本さんのアイゼンの緩みを土井CLが締め直すうち、安場さんも上がってきた。この後の行動を協議、坂本さんは小屋で待機、他のメンバーはもう少し上まで行ってみることにする。少し上がると風はますます強い。それに視界は5m位、ホワイトアウト状態。8合目辺りか、棚を上がったところでいよいよ強風、凍傷も心配される。先行するパーティも引き返してくる。11:15 弥山登頂を諦め、無理をせず下山することにする。パウダースノーで、下りは足の踏ん張りが効きにくい。6合目小屋付近も強風、11:35 行者谷への分岐に入ったところで昼食休憩、立ったままパンをかじる。視界悪くここまですべていい写真も撮れなかったが、曇天ながら流れる雪に樹氷が綺麗になる。カメラを出し何枚か撮る。11:50 頃行者谷へ下山開始、尾根筋を下り出すと樹氷の背後が明るくなったと思ったら青空も出てきた。急いでシャッターを押す。樹氷に青空のコントラストは実に素晴らしい。しかしこれもほんの束の間、再び重苦しい雪空に変わる。急な斜面を下ること30分、沢を越えて少し上がって12:30 元谷避難小屋着。悪天のため小屋の中は満杯、小屋の陰で一時強風を凌ぎ小休止。午前よりも気温が下がったのではないかと思われる。



元谷から屏風岩は望めるが山頂付近は雲の中、小屋を離れ元谷を少し上がった先の宝珠越側の左斜面で雪上訓練をすることにする。明日の天候次第では雪上訓練ができないことも考慮し、また弥山頂上アタックを諦めたことで時間はまだ早いことから予定変更、昨年行った所から少し下がった場所である。13:00 頃から1時間余り、土井CL、石井さんの指導でラッセルやピッケルを使った滑落停止、ザイルを使った懸垂下降と確保技術など。ただ、短時間で、十分な訓練はできなかった。その間手が凍えてくる。風邪気味の安場さんは先に一人下山する。14:00 頃雪上訓練を終えて下山開始、砂防ダム脇の斜面は足場が狭く、アイゼンを履いていてもスリッパや、ツアッケのひっかけに注意をしながら慎重に下る。アイゼンがないとむしろ凍り付いた車道が滑りやすく注意を要する。15:00 頃宿舎のホテルに帰着、スキーの橋本さんは既に帰宿していた。乾いた雪で装備等も大して濡れることもなかったが、部屋の暖房を上げて送風の吹き出し口に置くと瞬く間に乾燥する。入浴して夕食迄の2時間程、缶ビール



と差し入れのブランデーや持ち寄った焼酎などで乾杯、夕食も結構美味しくいただいた。明日の雪上訓練に備えておおよそのパッキングをして21時頃には就寝した。

2/12(月) 6時過ぎ起床、7時朝食、山小屋と違い朝から豪華な食事、シジミの味噌汁が珍しいが、シジミが可哀そうなくらい小さい。朝食後フロントで宿泊料の清算の際、雪のため九州道は不通との情報。もし3号線を帰るとなると何時間かかるか分からない。部屋で相談の結果、今日の雪上訓練をやめて朝から帰ることにし、改めて荷をまとめる。雪は昨日に増して降っている。南光河原駐車場へ行くと、車は深い雪の中、50cmくらいは埋まっている。

ピッケルでトランクの上の雪を除けてスコップを出し、30分ぐらいかけて除雪。9:20頃、駐車場を出発し、帰途に就く。宍道湖PAで小休止、土産など購入する。ここに来ると晴れている。が風は冷たい。運転を交替しながら往路を辿るが、10:50松江道入り口で止められタイヤチェック、冬用タイヤ



の点検後、松江道に戻る。中国山地越えもかなりの積雪、30cmはあろうか、11:30 最高点 627m、12:00 三次東JCTで中国道に入る。12:40 安佐PAで給油と昼食、中国道をそのまま行くかと思ったら、先行車は山陽道に直進した。遠回りかと思ったが結果的にはあまり変わらないか。再度タイヤチェックがあり山口JCTで中国道に乗り、14:55 美東SAで休憩。道路情報で、14:30頃九州道の閉鎖が解除されたと知って安堵。九州道に入り車はやや多くなる。16:20過ぎ、古賀SA休憩、道路はとくに渋滞等もなくスムーズであったが、雪道もあり休憩を入れると帰路は9時間近い長旅であった。17:50 まだ薄明るうちに北区役所に無事帰着、解散となる。

昨年に増して厳しい寒波の中、残念ながら弥山登頂は果たせず、雪上訓練も短時間で切り上げざるを得なかったが、雪山の厳しさを体験する機会とはなった。綺麗な雪景色はいわばメルヘンの世界、しかし毎日これ以上の深い雪の中で生活する人達の苦労が偲ばれる山行でもあった。(中林 記)



平成29年度第1回

冬山登山講習会報告 (九重)

15608 佐藤正樹

1. 期 日 平成30年1月6日～7日
2. 場 所 座学講習会 瀬本ユースホテル
(阿南会員=ペアレント)

実技講習会 瀬の本～赤川登山口～久住山～御池～避難小屋～沓掛山～牧の本峠 帰熊

3. 参加者 松本莞爾・佐藤正樹・安場俊郎・中林暉幸・石井文雄・池田清志・山本 直・坂本雄二・岩下律雄・浦川留美・中村 寛 11名
(オブザーバ 阿南誠志・まゆみ夫妻)

日本山岳会熊本支部1回目の事業として1月6日～7日の冬山研修会を1泊2日で実施しました。一日は座学の講習会、二日目は久住山(1786.5m)を赤川登山口(1050m)から登り牧ノ戸峠(1300m)下山。冬山登山は体力がないと登れないということでキツメのコースを選びました。

1日目は宿泊先の「瀬の本ユースホテル」で冬山登山について松本支部長より基礎的な冬山知識から、雲の形状や気圧配置による山の気候予測。そして登山ウェアのレイヤリング(重ね着)、ザイルワークと多岐にわたって有意義な講習をしていただきました。講習を終えて近くの黒川温泉にて汗を流す。夕食はユースホテルで美味しい鍋料理を囲んで楽しい親睦会となった。22時就寝。



2日目6時起床。朝食を取り、メンバー集合後に下山口となる牧の戸峠駐車場に車を配置。ユースのマイクロバスで赤川登山口まで送迎していただき、午前8時37分登山開始。赤川は南斜面ということもあり先日降った雪は殆ど溶けてしまっているようだ。黒々とした久住山から雪はまったく期待できないと正直思った。風もなく寒さもない。赤川温泉の湧き場も無風で硫黄臭が吹き溜まっており強烈な臭いだった。登り始めると30分も経たずに暑くてたまらず 各々1枚ずつ上着を脱いでいく。登山道

は一部修復途中のところもあるが木段がきれいに整備されており急登でも登りやすい。なるべく汗をかかないようにペースを抑えて歩くが2回目の休憩でインナーシャツだけになった方もおられた。完全防寒装備でスタートしていたメンバーだったが夏山と変わらないような格好になる始末。このまま暑いままかと思いきや、7合目の岩場に差し掛かる頃から上昇気流による風が吹き始め汗をかけた体を冷やしてくる。再び冬山服装に整え頂上に向けて出発。11時37分久住山山頂着。この日はこれまでにないほど空気が澄み切っており阿蘇五岳、由布岳、祖母・傾、その奥には市房山、霧島方面、そして宇土半島まで一望できたのは感激だった。時間に余裕があったので御池を経由する。池は完全に凍結しており多くの登山客が氷の上で楽しんでいた。このあたりから積雪も増えてきて寒さを感じるようになってきた。久住分れの避難小屋を目指す。昨日の講習で学んだ天気予測から吹き始めた風から西に低気圧を確認、くじゅう連山にも次々と雲が発生していく様子を実感できた。避難小屋での昼食を終えて出発する頃には冬山の寒さとなっていた。冷たい風に吹かれ体感気温はかなり低かったのではないだろうか。耳はちぎれるように寒く、手袋の指先は凍るように冷たい。雪を歩くうちに靴内にも溶けた雪水が染みていたといったことはなかっただろうか？ここでは自分の装備が冬山に適切なのか、不足はないのか各々メンバー勉強になったことだろう。もっと厳しい冬山では大変なことになると思い、見直したいと反省した。

牧ノ戸駐車場への下り道では凍結しているかもしれないということで、装備リストにあった軽アイゼンを練習を兼ねて装備して歩いてもらった。滑らなくて安心といった声もあった。泥道も凍っており、靴も殆ど泥汚れがなかったのも幸運だった。午後2時過ぎ、無事に皆登山口へ下山。今回の冬山研修では1泊としたことで充実し内容となりました。

瀬の本ユースホステルではシェルパの阿南さんより大変お世話になり、くじゅう山行の拠点として利用するにはもってこいの施設だと思う。今後も繰り返したい内容となる山行であった。皆様お疲れ様でした。

(佐藤正樹 記)

熊本支部は登山計画を行う場合、担当者は必ず下見を行っています(1回~5回)

その記録を記載します

犬鳴山下見

15435 山本 直

来年の干支は「戌」である。「戌(犬)」がつく山といえば、一番に思い浮かぶのは大分県の「犬が岳」であり、また、熊本県には五家荘に「山犬切」がある。しかし、前者は日帰りでは遠すぎ、後者は普通のバスで行くには道が悪い。そのような中、T北氏から福岡県の「犬鳴山ではどうだろうか」との提案があり、併せてガイドブック等を貰った。見てみると、標高は600m弱であり、九州道の福岡インターから近く、県道沿いに登山口があることから、適当であろう話がまとまり、来年の干支の山は「犬鳴山」に決定した。

第一回下見 平成29年11月23日

田北芳博 山本 直 ……2名

11月23日、北区役所で待ち合わせ、ナビを「犬鳴ダム……」にセットして出発。後はナビ任せ。順調に進むかと見えたが、出発して2時間近くになり、もう着いても良い頃と思われるが、ナビはまだ30分以上の到着時間を示している。車を停めて、改めてナビを見ると、犬鳴ダム管理事務所管轄に「力丸ダム」と「犬鳴ダム」があり、ナビは「力丸ダム」の管理事務所に向かって愚直に案内していることが分かった。「紛らわしい名前をつけるな」などとナビやダム管理事務所に向かいながら、遠回りして目的の犬鳴ダム「司書橋」バス停に到着した。ダムの駐車場に止め、休業中のレストランの窓に貼ってある地図を見ると、計画していた、下山予定の藤七谷ルートは×印一杯で「道が荒れて危険」と表示してある。とにかく、頂上まで行って見ようと二人で相談し、ダムから10分程歩き、小さい「犬鳴山登山口」の標識から登り始める。少し水のあるガレ場を登ると、右側の急登にロープが張ってある。ロープは一部のみで、ロープの無いその先はさらに厳しそうである。これは使い難くそう判断し、更に奥の比較的登り易そうな場所を見つけて登る。尾根筋へ登りつくと、赤テープの目印も多く、道もハ

ツキリしている。後はひたすら急登を登る。道がジグザグに切っていないので辛い。1時間15分で「鳴山」山頂へ到着。「この先は？」と考えていたら田北氏から、「尾根伝いのルート」の提案があり、そのルートを進んで見ることにした。赤テープは多いが、見失わないよう注意が必要。途中、ピークごとに「忍山」「どんぐり山」等の標識が設置してある。展望は全く望めない。ロープが設置された急下降が

あるものの、後は快適なアップダウンが続き、最後は旧犬鳴峠突き当たる。縦走路は、更に直進し「猫峠」まで行くようになっているが、ここで犬鳴林道へあがることとする。峠を左折し、小さな沢を渡り、結束部が潤れ木となってかなり危ないロープを伝って登れば、犬鳴林道である。

・北区役所 8:55→植木インター→福岡インター→、犬鳴ダム 11:10・犬鳴ダム（登山口）11:15⇒犬鳴山 12:30⇒犬鳴林道 12:50（ここから西山・古犬鳴峠ルート）⇒忍岳 13:21⇒どんぐり山 13:49⇒若宮山 14:04⇒河原山 14:14⇒複数三角点 14:20⇒旧犬鳴峠 14:30⇒犬鳴林道 15:00⇒トンネル側登山口⇒15:20 犬鳴ダム 15:30 小休憩のみ 4時間15分・犬鳴ダム 16:00→脇田温泉（下見のみ）→福岡インター、植木→北区役所 18:00

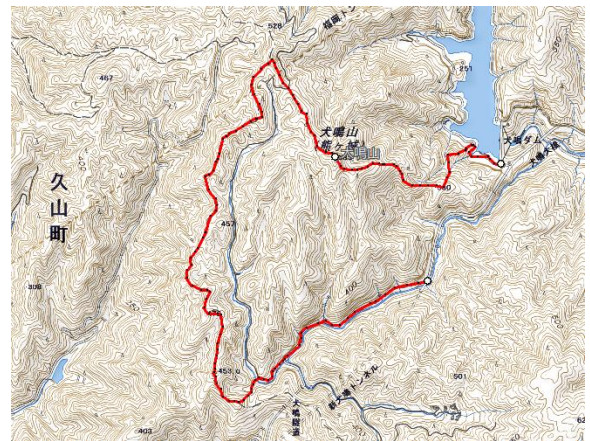
第二回下見 平成30年2月24日 安場氏岩下氏
田北氏 山本氏 ……4名

8時北区役所にて待ち合わせ出発。一旦、県道犬鳴トンネル登山口に停車してゲート等を確認し（この時、軽自動車を止め、登山準備中の二人の婦人と会う。）、そのまま犬鳴ダム9時45分「司書橋」バス停に到着。10時から、ダム側登山口からガレ場を登り、ロープの場所を確認。やはりロープは使わず、奥から登ることに決定し、尾根筋まで登る。他に適当な登り口が無いことを確認し、ダムまで引き返す。

トンネル側登山口まで戻り、エスケープルート確認のため、犬鳴林道を遡ることとする。途中、登山道から林道へ登るためのロープの架け替えを行う。林道を遡り、ルートと交わるところで、昼食。山頂はパスして、前回と同じ西山・旧犬鳴峠ルートにて旧犬鳴峠へ向かう。旧犬鳴峠への尾根へ登る途中で、トンネル側登山口で出会った二人の婦人と再開した。二人は、藤七谷ルートから犬鳴山を登り、

数年前に登った「忍岳」を目指しているとのことである。「地図にも載ってとのこと。我々は「今から行くところに、そのような所があったと思うが」と告げて、予定のコースを進む。少しして、一番後から進んでいた、安場氏に尋ねると、二人は反対の西山方面に向かったとの事てっきり、我々の後に着いてきているものと思っていたが、二人は我々の様なおっさん達の言うことは怪しい」と思い、反対方向へ向かうのであろうか。トンネル側登山口着いてみると、二人が乗っていた軽自動車がその、まま残されていた。二回目の調査で、犬鳴山のコースは、「ダム側登山口→犬鳴山山頂→林道横断（昼食）→旧犬鳴峠→トンネル側登山口（第一回下見と同様）」とし、エスケープルートとして犬鳴林道が使用できることを確認した。

トンネル登山口 10:45⇒林道分岐 11:05…ロープ掛替作業…出発 11:35⇒林道と登山道交差点 12:10…昼食…出発 12:45⇒忍岳 13:10⇒どんぐり山 14:00⇒宮若山 14:25⇒河原山 14:30⇒三角点 14:35⇒旧犬鳴峠 14:50⇒犬鳴林道 15:15⇒トンネル側登山口 15:35



干支の山「犬鳴山」登山ルート

H29年11月23日

H30年 2月24日の下見で決定



◎干支の山「犬鳴山」登山

担当 山本 直

1. 目的 今年の干支「戌」にちなんだ山を登る
2. 期 日 平成30年3月4日(日)
3. 場 所 犬鳴山 583.6m 福岡県若宮市
1/25000 脇田
4. 集合場所・時間 市民会館前 AM7:30
北区役所駐車場(旧植木町役場) AM8:00
5. 日 程 市民会館7:30 →北区役所8:00→
植木インター8:30→其山PA(トイレ休憩)→
福岡インター9:30→犬鳴ダム(登山口)10:
00 上り 登山口10:20⇒犬鳴山山頂
12:00 下り 山頂12:10⇒犬鳴林道12:
25(昼食) 出発13:10⇒西山・古犬鳴ルー
ト⇒犬鳴きトンネル(登山口)15:30 山口
(犬鳴トンネル)15:40→福岡インター、植
木インター→北区役所17:40→市民会館8
:10(着)
6. 参加者 松本莞、石井、中林、安場、池田、田
北、宇都宮、千々岩、山本、松本博、佐藤、多
田、三宅、宮本、宮本洋子、浦川、坂本、岩下、
中村、内布、脇元、新田、土居、森尾、門司



7. 概要 一昨日からの雨の予報が、昨日晴れへ
変わり担当としてホットした所である。予定通
り、市民会館シアーズホーム夢ホールを出発、
北区役所からの乗車者に乗せ、植木インターか
ら福岡インター経由、犬鳴ダム登山口へ向かう。
途中其山PAで休憩。犬鳴ダム登山口にて、準
備運動を行い、犬鳴山へ向かう。いきなりガレ
場の急登。みんな頑張ってる。尾根筋へ登り、
全員を確認し、途中小休憩を取りながら、雑木

だけで展望も無い急登を登る。1時間半でチョット開けた、犬鳴山頂上に到着した。サット記念撮を済ませ、ロープのある急坂を下り、林道の横断地点へ到着。林道横断地点は、大きく開けており、丁度12時となり昼食とする。各自思い思いの場所で昼食を取って貰う。この林道をエスケープルートとして考えており、下見時点で、40分程下るとトンネル側登山口へ到着することが分かっている。全員に尋ねたところ、リタイヤはなく、全員登山を継続する



とのことであつた。12時半出発。15分程登ると、古犬鳴峠と西山へのルートの尾根道へでる。そこを左折して、杉または雑木林の中の、展望が全くきかない尾根道を赤テープを頼りに、アップ・ダウンを繰り返す。途中、ロープの急坂もある。尾根の小ピークには、忍岳、どんぐり山等の標識があり面白い。杉林の急坂を下りると、やがて、犬鳴峠のプレートのある、古犬鳴峠へ到着する。そのまま直進すると、猫峠まで続く尾根道である。我々は、峠を左折、小さな、沢を渡り、林道へ出る。少し歩けば、バス待っている、トンネル側登山口である。須恵SAで休憩して帰途についた。急登、急坂、ロープもあり心配したが天気にも恵まれ全員怪我もなく無事に登山を完了出来て何よりであつた。(記 山本 直)



◎干支の山

「犬鳴山」に参加して

A0016 浦川 留美

平成30年3月4日(日)は雨の予報でしたが、開催日が近づくとお天気に代わり、雨でなくて良かったと思いながら、集合場所に向かいました。久々にお会いした会員の皆様と同じ班でウキウキわくわく、さぁ！出発です。

ムムムッ・・・私のアキレス腱がぐいぐいと引っ張られます。573.7mの山、小さい山とたかをくくっていた私は、次第に口数が少なくなって元気がなくなります。まだかな？と、上を見上げると杉の合間から見えるのは、厳しい上り坂のみ。思わず下を見て歩きました。うっそうとした林を抜けたら初夏を思わせる様な眩しい真っ青な空が、ぽっかりと浮かび上がりました。犬鳴山の頂上です。山と空を慌ただしく写真に収め、その場を離れ、また歩きます。資料を見ると、犬鳴連峰の北側が西山と見坂峠と記してあるので、西山を写すこと事が出来たのではないかと思います。

林道を抜けるとやっと昼食です。今日はテキパキするぞ・・・!!とそそくさと食事を済ませ、最初の時より少しはマシになったな-と自己満足し、列に並び下山しました。が、まだまだアップダウンが続き、皆んなで頑張っ



鬱蒼とした登山路

犬鳴山という名前は、「犬も乗り越えることが難しく、泣き叫んだ為」命名されたという説が濃厚ではないかと書いてありましたが、私も絶対この説が有力だと思います。それだけ、厳しい登りでした。

今日の干支の山は凄く鍛錬になりました。次はもっと険しい山に行けそうです。と言いながらアキレス腱がピキピキ言っているようではどうなのでしょう？来年は亥年ですが、どこの山になるのか、果たして亥のついた山があるのか、今からとっても楽しみです。

◎ニュージーランドの思い出

14462 宇都宮信夫

平成11年北九州の八幡山岳会を含む総勢18名でニュージーランド遠征登山をしました。

登山リーダーは八幡山岳会、その他の旅行全体を私が担当した、当時、ニュージーランドドルは1ドル60円(現在は80円)と私たちにとっては大変ありがたい時代でした。

宿はユースホステルで、食事は毎日、自炊生活です、日没は9時頃まで明るいので宴会は屋外で大騒ぎ、朝になると管理者から注意される始末。

食材については日本からダンボール3個を持参したがクライストチャーチの空港で1個が見つからず、諦めて、そのまま出発していたら3日くらいして宿泊先に配達されてきました。どうして私たちの宿泊先が分かったのかビックリして感謝した。

クライストチャーチ空港からレンタカー3台で出発して初めて見えるのがマウントクックで、いきなりの感動でわくわくする旅行が始まった。

車の運転は日本と同じなので特に問題はない、車も少ないので楽勝の運転ができます。

(1日目) 拠点となるマウントクック村から最初は観光ルートになっているマウントクック山(3764m)を正面に左手にセフトン山(3157m)見ながらフッカー氷河湖まで橋を渡り、花を觀賞しながらの素晴らしい往復コースです、朝の景色は雲で覆わ



れていましたが、時間とともに舞台のカーテンが降ろされたようにパノラマが目の前に広がりました。感動の時間でした、全般的に平地を歩きます。ニュージーランドはコースごとに独自の景色や

マウントクック(3764m) 植生が広がります、入山許可が必要なルートもありますが、フリーで歩

けるコースも沢山あります極端に言えば気の赴くままに歩くこともできます。

(2日目) 次の日はマウントクック村から左手のオリビア山(1917m)この山はジグザクコースを垂直にひたすら登るコースで大変な山ですが山頂からの眺めは3000m級の山を正面に世界が一変しました。

(3日目) この日は観光日で素晴らし景観を誇るミルフォードサウンドを遊覧船でフィヨルド廻るクルージングでした。



セフトン山 (3157m)

(4日目) キーサミット、ここは簡単なコースですが展望台(919m)まで登ると高層湿地帯の台地になり庭園に来た感じである、この日は天気恵まれず周囲の大展望は眺めることはできなかった。往復3時間の簡単なコースですが植生は見ごたえがありました。

(5日目) ベン・ローモンド登山はクインズタウンのゴンドラで登る、ここからの歩きであるが、ここからは観光ダンデムのパラグライダーの基地でもある。私はパラグライダーフライト遠征でも何回か訪れたこともあり、合計すると4~5回になった。山頂の展望台は素晴らしので、ゆっくりでき天気が良ければ遠くマウントクックも見える。

ニュージーランドは数多くのハイキングコースがありシーズンになると世界中からハイカーがやって来ます。また、その

他のアクティビティも多くバンジージャンプ、ジェットボート、ラフティング、氷河に着陸するマウンテンフライトなど数多くあり楽しむことが出来ます。気候は日本が冬の時、夏になりますが1日の中でも寒い時があり長袖でも必要です。雨量はかな

り少ないので今まで雨に会ったことはありませんでした。日本からのルートは東京からの直行便は料金が高く福岡からのシンガポール航空を利用してシンガポール観光も入れると2か国の観光はできます。ニュージーランドまでの工程は2日かかりますので、往復は4日間が必要になります。現地での生活は若い時はユースを利用してすべて自炊で格安の旅行ができますが現在では体力の問題もあり少しランクを上げた旅行になると思います。

現在はハイキングツアーでは昔に比べ高額な料金になっているが、個人で企画して現地でレンタカーを運転して回れば安い旅行も可能かと思われまます。つまり山や旅行のガイド無しで、すべてを個人で行うのですが現地では少しの英語会話が必要です。全体的には高山病の心配もなく、山を遠くに眺めるのではなく目の前に2~3千m級の山を仰ぎ見ることが出来ますので圧倒される風景になります。私はニュージーランドの景色で山に目覚め、それから各国の山の歩きが始まりました。

山を遠くに眺める風景とは違い、正面に何千mの山を見上げる風景は中国のカシュガルからパキスタンへのルートで7千mの山(コンガール山7649m)(ムズターグ・アタ山7546m)があり目の前に7千mを見上げる景色は圧巻です。

このような風景は私が見た範囲では世界にいくつもありませんでした。長期に滞在して気ままに山を楽しむには世界で最高の国です。

(記 宇都宮 信夫)



マウントクック (3764m)

パタゴニアトレッキング

13889 安場 俊郎

南アメリカ大陸の最南端パタゴニアはその特異な景観をテレビ等で見ていて是非訪れてみたい場所であった。H30年1月22日から2月6日まで「アルパインツアーの15日間のツアー」で参加してきた。

1日目 (1/22) 一行は男性7名と女性7名、最高齢は83才の男性で大半は70代、添乗員を含め15名。出発の日、羽田空港は5cmの積雪、閉鎖される前に飛んでしまえとの事か、19:20発のロサンゼルス行きに17時頃乗り込んだが、離陸許可が出ず、23時過ぎには機を下ろされてしまう。空港内は欠航となった客があふれている状態で、機内食の夕食も喰い外れ、コンビニ弁当を食べて片隅にシートを広げて仮眠する。

2日目 (1/23) 翌23日の夕刻まで空港難民の体。添乗員はロス以降の便の15人の座席の確保の手配で電話をかけまくっている。聞けば本社の係員に各地の会社と折衝してもらっているとのこと。これだから少し高いけど大きな旅行会社は私達シロウトには安心だと思った次第。前日と同時刻の便でロサンゼルスへ11時間の飛行、現地23日の10:30到着。1日遅れたため、以後の座席が確保できず、その日はホテル泊まり。午後は思いがけずグリフィースパク天文台の丘、ダウントウン等市内観光を楽しむ。至る所に高いヤシの木が見かけられ、泊まったホテルの外観が名曲「ホテルカルフォルニア」の雰囲気であった。

3日目 (1/24) 出発までロス市内観光 15:25ロス発 約10時間の飛行。時計の時刻を遅めたり早めたり、日本と昼夜が反対だが、身体を休めている時間が長いので苦にはならない。

4日目 (1/25) 早朝チリのサンチャゴ着、市内観光。真夏の季節だが乾燥しているせいか暑さは感じない。夕刻発チリの最南端の空港プンタアレナス19時着、南極観光



の飛行機が出る空港。

パイネ山群近くの宿まで240Kmを車移動。翌日1時50分宿着。ここまで4日を費やしたおかげで、パイネ2日、フェツロイ2日のハイキングが各1日になり、あとの付け足しの観光はそのままとなり、甚だ不満が残る日程となってしまった。

5日目、(1/26) パイネ国立公園内のハイ



キング パイネ大滝近くから約2時間でノルデスキョルト湖の対岸に雄大なパイネの山峰、色が3層に分かれており隆起した花崗岩の上に堆積岩と粘板岩が乗り太古の昔約2千メートルの厚さの氷河に削られて、この特異の山容ができた事を実感した。このあたりは南極ブナの森に覆われていたのだが、ずいぶん昔、トイレッカーの焚火から火事なり、今は白い裸の木だけが残り、低い灌木が生えている状態。風が強く乾燥した気候なので以前の森になるのは100年以上かかると聞いた。

その後、チリとアルゼンチンの国境を越えて、5時間かけて麓の町のホテル。21時ころ到着。当地は夜9時ごろにならないと暗くならない。

6日目 (1/27) 朝6時、朝食前に宿を出て朝日にあたるフェツロイの岩峰を写真に撮ろうとするがあいにく曇り。この日は村はずれからブランコ川沿いの山道を3時間南極バナの森歩きフェツロイBCへキャンプ場だが建物や水道施設等はなく、テントサイトがあるだけ。ここでサンドイッチの昼食(まずい)。ここから間近に岩峰が見られるロストレス湖などで急坂を登る。登り切ったら名物の砂が飛ぶ強風にさらされ、岩陰に避難。身の危険が感じられたので残念ながら見物をあきらめ下山となった。下山は4時間かけてホテルまで歩いて帰る。

7日目 (1/28) モレノ氷河 午前中クルーズ船 午後 対岸の遊歩道約2K歩く。氷河が崩れるのを撮影したかったが、落ちた後でかなわず。

8日目 (1/29) 国内線でフェツ島へ

9日目(1/30) ビーグル海峡クルージング 約2時間 オタリア(アザラシ)の群れやウミウ、絵はがきの赤灯台を見る。午後、ブエノスアイレスへ国内線で移動

10日目(1/31) 午後国内線でイグアスへ

11日目(2/1) 午前中 イグアスの滝見物 滝



は圧巻だが観光客で混雑。中国人が目立つ。午後、ブエノスアイレス乗継ぎでメンドーサへ。

12日目(2/2) アコンカグア南壁を眺望できるプエンテ・デル・インカへ約1時間程度のハイキング

13日目(2/3) メンドーサからリマ乗継ぎロサンゼルスへ ホテル泊

14日目(2/4) ロス 10:00 発

15日目(2/5) 15:25 羽田着 解散 メンバーはそれぞれの国内線に乗換え



追記 南米は遠いのでつい見たいところを入れてしまいがちであるが、今回もまたやってしまった。アルゼンチンは日本の国土の7倍半あるところを北から南、南から北へ飛行機に乗りに行ったようで、移動に大半の時間を費やした。パイネとフェッツロイの景観をもっと堪能したかったが出発日に飛行機の欠航で残念なことであったが体力的にはこれくらいがよかったのかもしれない。途中から同室になった83才の元教員のメンバーは体力と知力の衰えを努力して皆について行こうとされたところは頭が下がる思いだった。

◎ 第9回 宮崎支部・熊本支部 交流登山報告

担当 廣永 峻一

1. 期 日 平成30年3月10日(土)～11日(日) 1泊2日(旅館泊)
2. 場 所 宿泊 紅取山ハウス
3. 登 山 五木村「仰烏帽子山」(1301.8m) 集合(開始式)人吉城 駐車場
4. 日 程 3月10日(土)各支部ごと、上記駐車場に集合、開会式⇒人吉城址(昼食後観光案内)→永国寺→青井阿蘇神社⇒大和酒造⇒紅取山ハウス宿舎へ(昼食は各自持参) 宿泊地18時 交流会10時頃には就寝
3月11日(日)7時 朝食・8時宿出発⇒球磨⇒五木村(頭地)⇒東第2駐車場東登山口Aコース 登山口～東尾根～元井谷分岐～仰烏帽子山頂～分岐～仏石～福寿草群生地～東登山口
Bコース 登山口～東尾根～福寿草群生地～仏岩(往復)登山口

5. 概況

熊本支部 10日(土)7時45分集合(11名)、東海高校を出発 熊本インターより高速道を走り人吉城跡に集合すると宮崎支部は10時には到着していた。宮崎支部と合流し、10時40分から人吉城跡を見学し

犬童球溪の記念碑前で童謡「故郷の廃家」「旅愁」を全員で合唱し栄枯の夢を忍びながら城内で昼食を済ませ、人吉城跡を跡にした。次に幽霊寺で有名な永国寺を見学、13時に国宝青井阿蘇神社に行き大和一酒造社長の出迎えを受け、ガイドの説明に聞き入った。

15時大和一酒造に着き若社長の球磨焼酎についての説明(池田、安場が合流)を聞き土産を買い、16時紅取山ハウスに到着。

部屋割りをして17時30分から交流会となった。支部の報告 自己



紹介、を終え

平成30年度 特別企画

残雪期富士山登山企画のお知らせ

熊本支部 担当 土井 理

益々活性化する熊本支部では、初めて「残雪期の富士登山」計画しました。これは会員の皆さんから要望があった企画ですが、高みを目指す企画としては素晴らしい企画です。連休4日間を利用して登ります。残雪期の富士山はある程度の知識と技術が必要ですがアイゼワークやピッケルワーク等の雪上訓練をして山頂を目指します。参加希望の方及び詳しく知りたい方は、事務局または担当者へお尋ねください

登山計画(案)

1. 期日 平成30年5月2日(水) 午後7時出発～5月5日(土) 午前10時すぎ帰熊
2. 日程 5月2日 18:00 熊本駅集合 19:08 熊本駅出発(つばめ342号)⇒17:57 博多駅着 20:01 博多発(のぞみ98号)⇒22:45 京都駅着・23:18 京都駅発(富士急行)
5月3日 8:34 河口湖駅着...8:50 河口湖駅発(富士急行)...9:45 富士吉田口5合目 10:00 5合目～10:30 佐藤小屋着 午後付近で雪上訓練 15:00 佐藤小屋にて夕食就寝
5月4日 4:30 佐藤小屋出発～6合目～7・8・9合目～山頂往復(10:00 予定)～15:00 5合目 15:50 5合目出発(富士急行バス)... 16:35 河口湖駅・16:40 河口湖駅・シャトルバス・ふじやま温泉で入浴・夕食...20:27 ふじやま温泉発(シャトルバス)⇒20:38 富士山駅⇒京都へ(富士急行バス)
5月5日 5:57 京都駅着⇒6:56 京都駅発(のぞみ95号)⇒7:15 新大阪駅発(さくら545号)⇒10:35 熊本駅到着 解散
3. 経費 車中泊2泊 ・ 小屋泊まり1泊
交通費関係 JR熊本⇒京都往復

16,000×2=32,000円

富士急行 京都⇒河口湖往復14,800円
The Japanese Alpine Club Kumamoto Sec

富士急行バス 河口湖富士5合目往復2,100円

て山の歌を合唱し最後を飾った。

11日 7時朝食、7.45 出発し セブンイレブンで昼食を受け取り、五木の登山口へ急ぐ。登山口には30台ほどの車があり 先の道路脇に6台を駐車した。

A班 :登山口 9.40 分発 仰鳥帽子山頂 12.00 仏石 13.30 福寿草の群落を觀賞しながら 15.45 分登山口到着。

B班 :登山口 9.50 分発 後期高齢者に併せてゆっくり登り、仏石分岐から石灰岩のドリーネ迄三度の休憩をとり歩く、ドリーネ上部の福寿草の多い所で11.00から昼食をとり福寿草をゆっくり觀賞し 13.00 下山にはいる。班員の忘れ物もあり 15.00 登山口に到着。

A・B 班がそろい 16.00 全員の下山を確認して交流

会の閉会をして解散した。熊本支部は宮崎支部を送り出して四



台の車で出発、五木の元井谷を下り、大通峠から氷川町宮原へ下り松橋インターより高速道路を走り熊本インターを降りて東海高校に17.40頃到着。全員(安場、池田は別行動)の到着を確認し解散。

宮崎支部、熊本支部の中でも新登山口からの登山が初めての人も多く、登山道のわきを見ると素晴らしい福寿草の群落を発見し喜ばれた。五月にはイワザクラの花が見られる。

三年越しの登山が天気恵まれ 福寿草の花も最高に咲き誇り歓迎してくれ、思い出に残る記念登山となって本当に良かった。



宿泊関係 富士5合目佐藤小屋

1泊2食(夕・朝) 9,400円

概算合計 58,300円

昼食・行動食その他は各自負担

8190 工藤 文昭

JAC会報2017年12月号(No. 871)に『広島支部の日高山脈・幌尻岳における遭難事故報告と検証』が掲載されていました。幌尻岳といえば、私も特別に印象深い山で、飛びつくように拝読させていただきました。もう50年位も前に登った山ですが、その切っ掛けは私が顧問をしていた高校山岳部の生徒からの報告でした。彼は高校卒業後、福大に進学し福岡大学ワンダーフォーゲル部に所属していました。その福大ワンゲル隊が1970年7月に日高山脈のカムイエクウチカウシ山でヒグマに3日間もつきまとわれ、その間に幾度も襲撃を受け、メンバー5人のうち3人が犠牲になった衝撃的な獣害事故が発生しました。その時彼は、事故の事後処理で、何度か現地に出かけていて、日高山脈の山の話をしてくれました。「北海道では火山性の山も多いが、日高は褶曲性の山で、森林や谷は深く、尾根は細く、氷河のカーブがあちこちにあり、またアプローチも長く、他の山とは全然違う。隈は怖いけど、いやまです。」と教えてくれました。それから一度は登りたいと思うようになりました。何年か後に同山脈の縦走にははまれないけど、日高山脈の最高峰で、一等三角点の山ある幌尻岳(2053m)は登っておきたいと出掛けました。遠征中は天気にも恵まれたのは幸運でした。確かに四の沢の出会いからは徒渉が始まりましたが、川幅も大体10mくらいのゴルジュになっていて、水深も深いところでもひざ下くらいでしたから、何の心配もなく徒渉の繰り返しを続けました。当時の沢歩きは地下足袋にわらじでしたが、私は登山靴のまま入りました。おかげで登山靴に水が入ると水抜けが悪く歩きづらかった思い出があります。深田久弥の「日本100名山」の初版本が発行されたのは1964年で、当時はまだ登山者も少なく、テントを担いでの3泊4日、日高山脈の豊かな自然をゆっくりと満喫しました。日本100名山ブームが

The Japanese Alpine Club Kumamoto Sec

始まると、100名山完登のためにはどうしても登らねばならない山となり、登山者も増加。幌尻岳の

4. 個人装備(必須)

ザック・登山靴(革靴)・アイゼン・ピッケル・ピッケルバンド・ヘッドライト・防寒具・テルモス(魔法瓶)・山用サングラス・冬用グローブ・アウター(シェル、パンツ含む)・スパッツ(冬用)帽子(目出帽可)・地図・コンパス・ハーネス・環付きカラビナ1~2・スリング120cm×1~2・行動食・※お湯は佐藤小屋で有料で購入 ヘルメット

5. 共同装備

(参加者のどなたかが持参する) = ザイル9mm50m1本・ツェルト1

6. 参加資格⇒装備の不備不可・ピッケルアイゼンの経験あり4時間程度ピストン体力と脚力必要

※ 申し込み多数及び技能不足の場合はお断りすることがあります。

※ 申込み締切平成30年4月1日(木)までです

※ 深夜バスの予約でこの日の締切りになります

詳しくは事務局(新)または土井会員

土井会員の携帯電話 090-3074-1029

この企画は久しぶりの富士山登山遠征です。ぜひ、挑戦してみてください。

新入準会員紹介

◎ 馬場 正敏 福岡県大牟田市

新入会友紹介

◎ 土肥ムツ子 熊本市中央区神水

◎ 森尾 奈美 熊本市東区花立

◎ 門司 恵美子 熊本市東区花立

新しい仲間です。どうぞ
よろしくお願ひしま
す



幌尻岳遭難事故に学ぶ

登山基地となると、とよぬか山荘から第2ゲートまではシャトルバスが走るようになり、幌尻山荘も完全予約制、遠方から来る人は交通機関の予約等の為に少々悪天候でも無理して入山するケースもあるようです。雨になると豊平川は増水して、15回前後の徒渉が必要なこのルートは危険極まりない魔のルートとなります。今回の場合も天気の読み違いや、沢登りの経験や技量の問題、判断力の欠如が3名の尊い命を失う大事故につながったと思います。

まだ、広島支部での事故の経緯や原因についての検証は半ばのようですが、山の遭難事故は殆どが人為的なミスに起因しているといわれます。今回の中間報告を発表頂いただき、共有できることには感謝の気持ちでいっぱいです。私たちもこの中の問題点を真摯に受け止め、他山の石としなければなりません。まず、今回の広島支部の中間報告書をもとに事故の経緯を纏めてみました。

遭難事故の概要・・・

日本山岳会広島支部に所属する62歳から73歳までの支部会員8名〈男4・女4名〉の北海道・日高山脈・幌尻岳への登山計画書が広島支部山行委員会に提出された。支部では、支部主催の山行であれば計画書を提出して、安全委員会や支部長以下、他の委員会の委員長長のチェックを行って登山の安全を図ってきたそうです。しかし、個人山行については雪山、岩登り、沢登りについては計画書の提出を求めているが、内容のチェックまでは行われていなかったようです。

2017・8/28 午前4時 幌尻岳の登山基地、とよぬか山荘からシャトルバスで4時出発、第2ゲートからは徒歩で北海道電力取水口に6時半に着き、7時頃には四ノ沢出合いあたりに到着。ここから徒渉を10数回繰り返し、8時40分に幌尻山荘着、9時同山荘発、13時幌尻岳山頂着。16時30分幌尻山荘帰着（泊）。

8/29 4時30分起床。夜半からの雨は続いていましたが、隊員の1人が「今日は午後から天気は悪くなる」と認識していたため、出発するなら早い

ほうがいと判断し、朝食も取らず、すぐに下山することを決定する。出発前に小屋の管理人から、沢

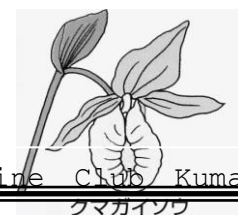
が増水していることから、様々なアドバイスを受け5時半に下山開始、沢の水位は昨日より50cmくらい増水していたが、10数回の渡渉は男子が沢の中央でサポート、最後から2つ目の徒渉点で初めてフィックス・ロープを張り通過。最後の徒渉点になる四の沢出会近くに来てリーダーAさんは「流れが速くてここは徒渉出来ない」と判断し、隊員にその旨を伝えた。しかし、男子3人が話し合い、B氏は「これだったらいけるよ」と、ロープでビレイされて、左岸に徒渉して、右岸の支点より5m位下流の立木にロープをフィックスした。次にC氏が、このフィックス・ロープにカラビナとスリングでわが身をつなぎ、徒渉を始めた。3分の2位渡ったところで転倒。左岸に渡っていたB氏はザックを担いだまま救助に向かったが、C氏のところで転倒し起き上がれなかった。右岸にいたD氏がリックを担いだまま救助に向かったが、2人の転倒者を引き起こすことはできなかった。次に、右岸にいたE氏が空身で救助に向かったが転倒し、B・C・Eの3名がフィックス・ロープに繋がれたまま溺れた状態で動けなくなった。D氏は溺れた3人を左岸近くに固定して左岸に渡った。3人は、いずれもフィックス・ロープにカラビナ、スリングで繋がったままだった。

携帯電話で救助要請をしたが圏外で繋がらない。10時頃、下流から登って来た2人の登山者に幌尻山荘の管理人に門別警察署への救助要請を依頼しツェルトをかぶり待機。管理人は衛星電話で連絡。12時30分に救助用ヘリコプターが到着し、2回に分けて3名を平取国保病院に運び、3名とも溺死が確認された。13時30分、徒歩の地元救助隊が到着、残りの5名は救助隊に付き添われて自力で下山した。

広島支部では門別警察署から遭難の連絡があり、すぐに支部ルーム内に遭難対策本部を設置。その後の対応については本会会報 No. 871号の報告書に詳細に記載されているので、ご

覧いただきたい。

The Japanese Alpine Club Kumamoto Sec
ママガイフ



事故の原因・・・

熊本支部の私が遭難当時の状況に意見するのは失礼なことですが、……

支部名でJAC会報に公表されておりますので、文中に支部名も使わせていただき、事故原因についての私見も交えて考察させていただきますこともお許しください。

① **まず、幌尻岳は特異な山で、特に四ノ沢出合いから幌尻山荘までの間は徒渉が連続し、これまでも幾人もの登山者が谷川で事故を起こしています。**雨の日の登山では周囲の天候に最大限の注意を払うべきです。現地では増水時の入山は禁止されていたはずですが。この時も会員の天気予報の認識違いもあったようですが、下山当日は夜半から雨は降り、増水していたのになぜ出発したのか。平常は、深いところでも50cm程度、入山時より50cm位増水していたとありますので、出発時は1m近くあったということになります。水の力は恐ろしいもので、水位がへその位置を超えれば、身体は浮き始め、足の踏ん張りもききにくくなり、歩けなくなります。身長にもよりますが、ザックが水につかり、それが浮袋みたいになり、転倒を引き起こすことにつながります。この山での雨の中での行動判断の間違いで、1日か2日小屋に停滞していたら遭難は防げたと思います。この雨の中の判断ミスが遭難原因の全てでしょう。

② **転倒すると、ザックは浮力を増し、浮袋になります。**浮袋の下の中水に顔は沈み、溺死を引き起こす要因になります。そうならないように徒渉時にはザックのウエストベルトを外して、いざという時にはザックを肩からはずことも沢登りの知識・技術として身につけておくべきだったと思います。救助に向かうには、基本的にはザックはおろし、空身で川に入る方が自由がきいていいのではと思います。この時Eさんは空身で入り、転倒して動けなくなり遭難しましたが、それは転倒した場所の水深や水の流速の問題だと思います。

③ **固定ロープへの身体をつなぎ方も、カラビナで直結したのか、スリングでつないだのか、スリングも長さにより体の自由度は異なりますので、そのあ**

たりの知識、技術もあったのか疑問です。

④ もう一つ大切なことは、フィックス・ロープをつたい徒渉する時には、徒渉者の転倒に備えて、細引等を体に固定して、岸にいる者が確保しておくべ

きで、転倒した時には、岸から引き上げることができま

す。今回もこの準備ができていたら、溺死を防ぐことはできただろうと思います。
⑤ **最後に、この隊では、リーダーシップ・メンバ**シップが全く機能していなかったのではないかと思います。報告書にも、リーダーの統率力、山の状況変化に対する判断力の欠如、メンバーの自分勝手な行動・判断や沢登りに対する経験不足などの脆弱な部分が今回の遭難につながったのだろうと報告されておりました。

⑥ **この登山については、多くの問題点もありました**が、高齢者のグループでありながら、この山域に入り、最初の2日間は長時間よく歩き、登頂の目的を果たしました。3日目の谷川は増水の中、10数回の徒渉を終えて、あと一回の徒渉を終われば、間違いなく幌尻岳の登山を完結できるところまで成し遂げました。最後の関門まで来て遭難という悲劇は、あまりに不憫な出来事でした。参加された皆さんの悲しい結果から私たちに多くに事をおしえていただきました。犠牲者の皆様のご冥福をお祈りいたします。

どうしてこの支部が・・・

広島支部の設立は、1997年と比較的新しい支部ですが、日本山岳会全支部の中での数少ない公益社団法人格の認定を受け、会員数も100名をはるかに超えています。支部活動も活発で、優秀なリーダーも多く、質の高い支部や、社会貢献的活動も盛んな支部です。JAC支部の中でも最も活動する支部として評価されています。一昨年の富士山での事故に続き、今回の事故ですから、支部も大変でしょうが、会員一人一人が自分のパイオニア・ワークを目指し、会の活動が盛んになれば、自分の力量を取り違える人が出たり、支部活動の勢いの中で、もしかすると慢心の膨らみができて、そんな状況の中での事故は起りうるのかもしれませんが、どの支部も山岳遭難の取り組みはされていますが、事故は広島支

部のような優れた支部でも起きるものですから、安全登山のためのリスクマネジメントは、登山を続ける限り真摯に取り組まなければならない大きな課題です。

さて、熊本支部では・・・

熊本支部60年の歴史を顧みますと、支部員の遭難事故は、熊本支部設立2年目の北田支部長の遭難死ぐらいで、その後は一度も起きていないのではないかと思います。それだけ会員の皆さんが、登山のルールを守り、この時の教訓を生かしてきたのでしょう。勿論、登山の停滞もあったのかもしれませんが。私は阿蘇の遭難者救助で遺体を担ぎ出したり、知人を何人かなくしたり、高校山岳部の教え子を山での遭難で失ったり、悲しい思い出はいくつもあります。山の遭難ほど悲惨なものはありません。今後も、熊本支部から遭難者を出すことは決してあってはなりません。本支部も近年は、支部活動も活性化してきていて、海外に出たり、国内の高山に出掛けたり、四季を通じてオールラウンドな山登りに取り組む人も増えつつあります。こんなステップアップの時期にこそ遭難事故が起きることもあります。去年は、支部創立60周年記念として、台湾の山に遠征隊を派遣しましたが、天候にも恵まれず登頂は出来ませんでした。その登山報告会で発言がありました「登りたい山と、登れる山は違う(?)」という発言はどのような意味で語られたのかはわかりませんが、辛辣な意見と受け止めました。日本山岳会でも遭難対策規定を改定し、山行時の登山計画書の作成及び提出を定め、昨年12月から施行されています。支部主催の山行は勿論、個人山行でも提出を求めています。これまでの山行では、準備会に参加し、計画書作成にかかわることもなく、山に連れ行ってもらったようでした。計画書の作成は大変な事かもしれませんが、作成に関わることで、登る山について理解を深め、その山に登る為の様々な準備もできますし、メンバーシップの醸成にもつながります。

支部山行、個人山行でも、場合によっては支部役員による計画のチェックも必要な時期に来ているのかもしれませんが。広島支部の場合も安全委員会が

リスク管理に携わっていました。登山は各人が主体的に自由に登りたいと思う人が多いのかもしれませんが、登山は、危険と安全が裏腹に存在するスポーツですから、計画・実施に当たっては、支部内か

ら様々な意見をいただいて、登山のリスクを少しでも取り除いておくことは必要です。このことは今もやっていますが、ここでもう一度点検・確認することも必要ではと思います。広島支部の報告には日本山岳会員の問題の共有により、山の遭難防止につながることへの願いが込められているとおもいます。

=====

個人山行にも

「登山届を義務付け」!!

支部も急遽12月25日から実施に対応

日本山岳会はすべての会員準会員を対象に、山地・山岳地域で行う山行、その他の活動の際、それがたとえ単独で行うにせよ、届け出を提出するよう義務付けることになりました。日本山岳会は従来、原則自己責任の下登山活動をしていました。(当然地元警察に登山計画書を提出するのは、登山愛好家の義務ではあります)

JACの本部への登山計画書等の提出は果たして全員実施できるかは大変不明なところですが、それと同時に上からの押し付けはいかなるものかなどと、疑問・反論もあるところです。

今回の本部の処置はこの2~3年、支部の活動の中で遭難事故が多発し、その対応に追われた経緯がある。ここには、昔、ベテランのみの入会を許可し、すべて自己の責任の下で活動するのが当たり前の流れがありました。近年、会員数の低下とともに、ベテラン以外の入会者も増えてきて、基本からの対応となったものと考えられる。それは本部主催の事業の中にも表れ、会員を対象とした講習会、研修会が開催されるようになったことで証明できます。現在、会員獲得とリーダー養成も兼ねて登山教室等も開催しています。これは他の支部においても同様に開催しています。そんな中、広島支部の3年連続の

死者も含む遭難が発生し、JACでは会員の遭難に対応に苦慮した経緯がありました。

一昨年、各支部主催の山行に登山計画と報告書の提出を義務付けることになりましたが、昨年1

2月からは会員の個人山行にも、その網を被せることになる。その説明には「皆さんは、毎回の山行では、登山口や、所管警察などに、普段から届けを出されているでしょう！そのコピーを本部にメール

し
れ
が

春の山野草観察講習会

【座学】5月13日（日）東部公民館。

【観察登山】5月27日（日）阿蘇外輪山

提出することになる。義務付けという言葉には抵抗がありますが、活動そのものに、自覚を持ち自己責任は勿論のこと、支部の中でその実践をすることになりそうです

=====

遭難対策運用要領

平成26年10月22日 制定

平成29年12月13日 改正

I. 登山計画書の提出について

(1) 計画書受理機関への提出

各支部、各本部委員会及び各本部同好会において定められた登山計画書提出手続き（登山計画書様式、提出期限、提出方法等）にしたがい提出する。

(2) 本部遭難対策委員会への提出

以下のいずれかの方法により提出する。

提出後に登山計画に変更、修正等が生じた場合は、修正版を提出する。なお、登山中止の届出等は不要。

【メール】

① 登山計画書は電子ファイル（Word、Excel、PDF型式）として添付する。

② ファイル名は、下記③に示すメールタイトルと同一とする。

③ メールタイトルには以下の内容を記載する。

『入山年月日（西暦・半角）、支部名／委員会名／同行会名／提出者名、目的山域』

※入力例（本部委員会山行の場合）：20171225、遭難対策委員会、剣岳

※入力例（個人山行の場合）：20171227、雲取山

④送付先アドレス：keikakusho@jac.or.jp

【ファックス】

① 計画書をファックスで送付する。添書は不要。

ファックス番号：03-6893-7627

II. 遭難事故発生時の連絡について

遭難対策規程第9条の定めによる遭難事故に係る情報の連絡方法は下記の通りとする。

(1) 遭難対策委員会へ連絡が必要な遭難事故

山行の留守本部担当者が下記のいずれかの

状況を認識した場合

① 事故者の救助のため、警察、消防、山小屋その他の公的機関に救助を要請した場合

② 予定下山日時を過ぎても連絡がなく、遭難対策本部を立ち上げる等捜索救助活動を開始した場合

(2) 連絡方法

① 下記の電話番号に連絡する。

第1順位：090-8810-1786 ・第2順位：

080-2595-2090 ・第3順位：050-3805-1817

② 第1順位が不在時には留守電に支部名、委員会名、同好会名等及び担当者名を残した上で、第2順位に連絡する。第2順位も不在の場合は同じく留守電に残した上で、第3順位に連絡する。

(3) 連絡内容

下記の項目について連絡する。

① 山行主催者・報告者・連絡先：② 事故日時・場所：③ 事故者・状況・容体：④ 現場状況
⑤ 救助要請先・救助隊動向：⑥ その他遭難事故対応に必要な事項

(附則)

1. この要領の改廃は遭難対策委員会での審議決により、理事会に報告する。

2. この要領は平成29年12月25日より実施する。

(管理責任者：遭難対策担当理事)

個人山行も計画書
を出してください



Line Club Kumamoto Sec

平成30年度
日本山岳会熊本支部の事業予定

5月の予定

6月の予定

登山技術講習会（岩登りの基礎）
【実技】6月10日（日）北区植木町岩野山.

7月の予定

8月の予定

北アルプス穂高岳・上高地散策
健脚組と散策組に分かれて遠征を実施
.宿泊は日本山岳会登山研修所（期日未定）

登山技術研修会（沢登りの基礎）
【実技】8月4日（土）・5日（日）
雁俣山・津留川支流.
宿泊 砥用町キャンプ場

9

第3回「山の日」登山
【実技】8月11日（日）会場未定

夏季例会・ビールパーティ
8月25日（土） 会場会費未定.

秋の山野草観察講習会（写真講習含む）
【座学】9月2日（日）東部公民館.
【観察登山】9月9日（日）阿蘇外輪山

1

山都町脊梁山脈トレイルラン協力
【期日】9月23日（日）向坂山.
【宿泊】五ヶ瀬ハイランドスキー場

11月の予定

秋の森林保全巡視登山
【期日】10月14日（日）.場所未定

12月の予定

宮崎ウエストン祭／記念登山
【期日】11月3日（土）・4日（日）.
【場所】高千穂町五ヶ所高原

支部会員が写した写真展
【期日】12月1日（日）～2週間
【場所】.山の店シェルパ

平成31年1月の予定

海外登山報告会
【期日】12月9日（日）.
【場所】山の店シェルパ

平成31年新年晩餐会
【期日】1月19日（土）.
【場所】未定

2月の予定

冬山登山講習会 in 九重
【期日】1月26日（土）・27（日）.
【場所】法華院温泉

3

冬山研修会大山
【期日】2月23日（土）～現地1泊.
【場所】鳥取県大山

千支の山登山
【期日】3月3日（日）
【場所】猪ノ子伏（白髪岳）人吉

編集後記
平成30年になりました。昨年は設立60周年のけじめでしたが、平成も今年で一つのけじめの年になります。熊本支部も役員が若いメンバに入れ替わり新しい支部のスタートとなり益々意気軒高な都市になりますように。

支部報の編集委員を募集しています。